18　次の文章は、小林道憲『芸術学事始め』の一節である（設問の都合で一部省略し、表記を改めたところがある）。読んで設問に答えよ。

〈北海道大〉　二〇一六年度出題

　画家にしても、彫刻家にしても、芸術家は、対象をよく見て、自分の感性でそれを構成し、作品を作っていく。しかし、必ずしも、自分の構想通りに作品を作り上げられるわけではない。

　陶芸は、その最も適切な例であろう。もともと、陶芸家は、単に自分だけの構想力と力量だけで作品を作ろうとは思っていない。どのような作品が出来上がるかは、かなりの程度、素材や条件に支配される部分が大きい。粘土の組成や性質、火の温度の加減、湿度など、その時、その場の気候、風土など、自然に任せねばならない部分が大きいのである。陶芸は、ある意味で、大自然の創造力に身を任せる芸術である。素晴らしい陶芸作品は、土の声を聞き、火に従い、自然に随順になったとき生み出される。陶芸は、地水火風、天地人すべてが協働して創造されてくる芸術なのである。その意味では、陶芸の場合、人為では制御しきれない面、偶然に任せねばならない面がある。どのような味わい深い色が出てくるかは、炎や窯の偶然を当てにしなければならないのである。むしろ、そういう偶然の効果や成果を喜ぶのが陶芸でもある。Ａ陶芸は、自然の中にみずからの行為を参入させて、自然の方から作品を作り出す芸術だとも言える。

　通常、芸術作品は、経験的な素材に主観の想像力が加えられることによって成立すると考えられている。しかし、芸術制作に働く想像力は無制限ではない。単なる想像力だけなら、夢想にすぎない。また、芸術家は、自分の頭だけで考えたイメージや計画を、そのまま腕ずくで素材に強制するわけでもない。制作の現場では、芸術家は常に素材から制限されている。しかも、素材に制限されてこそ、造形芸術は成り立つ。素材は、芸術の形成作用に対して抵抗もするが、形作りを助けもしてくれる。素材は素材ですでに形作られており、石にしても、土にしても、木片にしても、布にしても、ゴツゴツしていたり、粒だっていたり、ざらついていたり、節が多かったり、それ自身の性質をもっている。だから、画家にしても、彫刻家にしても、素晴らしい作品を作るには、材料の個性に精通していなければならない。

　芸術の制作や表現は素材なくしてはありえない。素材に制約されなければ、形はできない。芸術家が材料の中に身をもって働きかけるとき、材料そのものが応答してくる。Ｂこの能動と受動の相互作用から、創造的形は生まれてくる。形は、素材との出会いから生み出されてくるものなのである。

　制作の現場は、素材との対話である。確かに、形も素材に働きかけ、素材を変貌させるが、同時に、素材の方も形に抵抗し、形を変えていく。芸術家の素材への働きかけと素材からの応答が芸術家の経験となり、その経験から新しいものが生み出される。しかし、素材との出会いの中から何が生み出されるかは、必ずしも、芸術家自身にまえもって分かっているわけではなく、出来上がるまでは分からない部分がある。むしろ、素材の中から創造的形を引き出してくることが、芸術家の役割なのである。

　素材と形はと分けることができない。特に、素晴らしい芸術は、素材と形とが見事に一つになっている。芸術作品は、形成された素材なのである。だから、芸術家は、素材をよく知らねばならない。彫刻家も、石材や木材の性質を熟知する必要がある。むしろ、石材や木材の中に、作られつつある像が見えてくるようでなければならない。江戸時代前期、全国各地に独特の粗削りの木彫仏像を残したは、木を見た途端、木の中から仏像が現われ出てくるように見えてきたという。円空にとって、樹木は単なる材料ではなく、それ自身生きた命であり、そこから生きた仏が生まれ出てくる源泉だったのである。

　芸術作品を、すでに形作られたもの、完成形としてのみ眺めてはいけない。むしろ、芸術作品が作られつつある過程を見なければならない。制作過程の中から刻々と姿を現わし出してくるもの、それが芸術作品である。を手にしたランジェロは、大理石の石塊の飛び散る火花の中から、おのずとダビデ像を生み出していったのである。そこには、まえもってのアイデアなど忘れ去った芸術家の行為があり、その行為の中で素材と形は一つになり、新しいものが生み出されていく。（略）

　芸術は、素材としての自然を改変して、美しく快い作品にまで仕上げる技術である。技術は自然の加工を伴う。自然に助けられながら、自然を改変し、自然の上に形を刻む。そういう行為が芸術である。人間は、技術によって自然の創造を学ぶ。芸術家は、そのような自然との対話を通して、自分自身が描こうとしている物を自覚していく。すぐれた画家でさえ、否、すぐれていればなおのこと、描きながらその物を見、発見していく。画家は、制作活動の中で物の本質を会得すると同時に、その過程を通して、人為ではとらえきれない自然の深みを発見していく。

　と同時に、自然そのものは、探求すればするほど、その奥行きを増していく。ンヌが、同じ静物や同じサント・ヴィクトワール山をに何度も描き、しかも、その作品がどれも未完成に終わっていたのはそのことによる。芸術は未完成である。未完成だからこそ、また次の作品が生み出されてくるのである。自然も、芸術も、創造はそういう未完成を含む。人生には終わりがあるが、芸術には終わりがない。

　芸術の創造性は、芸術家の意図だけでは決まらない。芸術家も、創作活動に先んじて、あらかじめ精密な計画を立て、完成作を先取りしているわけでもない。制作の進行する過程で、最初の意図や計画が変わることも大いにある、創作過程を通して、新しい着想が生まれたりもする。制作途中での人生経験さえ、創作に影響してくることもある。例えば、作曲途上で友人の子の死に遭い、その曲が急に葬送行進曲風の曲調に変わってしまうようなことさえある。芸術作品の制作過程には、予知することのできない部分が付け加わるのである。

　芸術的創造の秘密は、創作活動とその過程のうちにあると言わねばならない。作品がどのようなものとして出来上がってくるかは、芸術家が実際に素材と取り組み、創作努力をしていく過程の中からしか把握することができない。その意味では、絵画の場合でも、画家が一筆ずつ画布に絵具を塗り付けていく制作過程の各々の瞬間ごとに、新たな創造が行なわれているということになる。芸術作品の制作過程は探究の過程であり、その過程には、創造に伴う産みの苦しみがある。また、そのような探究過程を通して、芸術家自身も成長していく。成長していくためには、芸術家は、単に自分の力量にのみ頼るのではなく、大きく言えば、大自然の創造力に助けられる必要がある。芸術的創造は、自然や人間の歴史の創造過程と変わらないのである。芸術活動自身が世界の創造過程の一つだからである。

　芸術作品の創造は出来事である。創作された芸術作品の中には、その素材はもちろんのこと、芸術家の人生、歴史、すべての出来事が含まれている。一つの作品の中には、直接そこには表現されていない他のあらゆる出来事が集約されているのである。

例えば、

　　箱根路をわが越えくれば伊豆の海や沖の小島に波のよるみゆ

というよく知られた朝の歌は、Ｃ一見、単純な叙景歌のようにみえる。しかし、そこには、お供を連れて箱根越えをし、急に開かれてきた伊豆の海の沖を眺めた実朝のそれまでの来歴すべてが含まれているのである。しかも、その来歴には、絶えず不穏な動きをしていた臣下の北条氏の動き、若くして将軍になったがゆえの不安、動揺、何も出来ない無力感、そういう孤独を歌にしか託すことのできなかった実朝の心情、すべてが含まれている。その不安は、沖の小島に寄せてはくだける白波の様子にも表現されている。そこには、耳には聞こえない白波の音をを凝らして見ている孤独な実朝がいるのである。

　あらゆる出来事の結節点のところに創発してくるものが、創作と言われるものである。その創発の瞬間は、過去のあらゆる出来事を含んでいるとともに、次の新しい創造を含んでいる。Ｄ芸術作品の創作は、あらゆる出来事の出会いから現われ出てくる一回限りの歴史なのである。その点から言えば、芸術における偶然のもつ意味は深い。

注１　円空――江戸初期の僧侶（一六三二～一六九五）。

注２　ミケランジェロ――イタリアの画家・彫刻家（一四七五～一五六四）。

注３　セザンヌ――フランスの画家（一八三九～一九〇六）。

注４　源実朝――鎌倉幕府第三代将軍（一一九二～一二一九）。

問１　傍線部Ａ「陶芸は、自然の中にみずからの行為を参入させて、自然の方から作品を作り出す芸術だ」とあるが、陶芸のどのような特徴を述べているか。六〇字以内で説明せよ。

問２　傍線部Ｂ「この能動と受動の相互作用から、創造的形は生まれてくる」とあるが、これはどういうことか。七五字以内で説明せよ。

問３　傍線部Ｃ「一見、単純な叙景歌のようにみえる」とあるが、筆者は実朝の歌をどのように理解すべきだと考えているか。六〇字以内で説明せよ。

◎問４　傍線部Ｄ「芸術作品の創作は、あらゆる出来事の出会いから現われ出てくる一回限りの歴史なのである」と筆者が考えるのはなぜか。九〇字以内で説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　Ａ素材や制作時の自然条件に従い、Ｂ人間の構想力と力量を加え Ｃ自然と協働し、Ｄ偶然の効果や成果に任せて創造するという特徴。（５６字）

Ａ・Ｄがなければ全体０。

Ａ＝３〔「自然に随順する」という内容が必須。〕

Ｂ＝２／Ｃ＝２

Ｄ＝３〔「みずから作り出す」という内容が必須。〕

問２　芸術家がＡ想像力を元に素材を変貌させようとすると共に、Ｂ素材の性質を熟知しその制約を受け入れることで、Ｃ事前の構想を超えた新たな作品が成立するということ。（７４字）

Ａ・Ｂ・Ｃがなければ全体０。

Ａ＝３〔「能動」の説明が必須。〕

Ｂ＝３〔「受動」の説明が必須。〕

Ｃ＝４

問３　Ａ自らの来歴による不安、動揺、無力感ゆえに Ｂ孤独に苦しむ実朝の姿が、Ｃ沖の小島に寄せてはくだける白波の風景として表現された歌。（６０字）

Ｂがなければ全体０。

Ａ＝３／Ｂ＝４／Ｃ＝３

問４　芸術の創造にはＡ自然や人生の経験などの偶然に影響された Ｂ芸術家の来歴すべてが集約されており、Ｃ芸術家も苦悩と共に成長しながら、Ｄ瞬間ごとの新たな創造を重ねていく終わりのない過程であるから。（９０字）

Ａ・Ｄがなければ全体０。理由説明でなければ減点２。

Ａ＝３〔「偶然に影響される」という内容が必須。〕

Ｂ＝２／Ｃ＝２

Ｄ＝３〔「一回限りの歴史」の説明が必須。〕